

第三者からのご意見

ムラタのCSRに寄せて

村田製作所のCSR情報は、本冊子「Murata Report 2012」とWebの詳細版の二つを併せてひとつの報告となります。本冊子では重要な項目だけを掲載し、詳細なデータ等はWebで開示されています。また冊子は、村田製作所のCSR経営を理解してもらうための基本情報として、企業情報とCSRの基本情報の2つの部分から構成されています。どちらの部分も、写真を多く活用して従業員の想いが伝わる記述がなされており、親しみを感じます。

重要な項目は冊子に掲載されていますが、年次報告であることの意義を明確にするためには、方針や組織の説明と、実績結果とのあいだが見えるような仕組み、年々の動きが分かるようなKPI(主要な指標)情報が必要ではないかと考えます。社会性項目のKPIを構築することは容易ではありませんが、PDCAのマネジメントサイクルを回していくことが重要です。個々の活動についても、もう少し詳しく開示されることも検討されて良いように思います。

特集「新規事業とCSR」では、高齢化社会や次世代のエネルギー事情に対応する新製品が紹介されています。社是に示された言葉の実現であり、本業のなかにCSRが組み込まれている実例です。社会のニーズに応じて社会の発展に貢献する事業を展開していくことは大切なことです。今後は、社是と実例の間にある中期経営計画などとの関連も開示するなどして、意思決定の透明性をより明確にされれば、さらに良くなることでしょう。

村田製作所グループはグローバルに展開されており、CSRについてもグループ全体に浸透させています。本報告書においても中国やタイの記事が紹介され、日本国内と同様の活動をしていることが伺われます。Webのデータ編では、海外物流のCO2の把握も開始されるなど、グローバルでのマネジメント体制を構築されつつあります。グローバル企業のCSR経営を展開するため、グローバルに進捗状況を把握し管理するための共通の指標となるものを構築されることをお勧めします。



神戸大学大学院 経営学研究所 教授

國部 克彦氏